

三笠ニュース

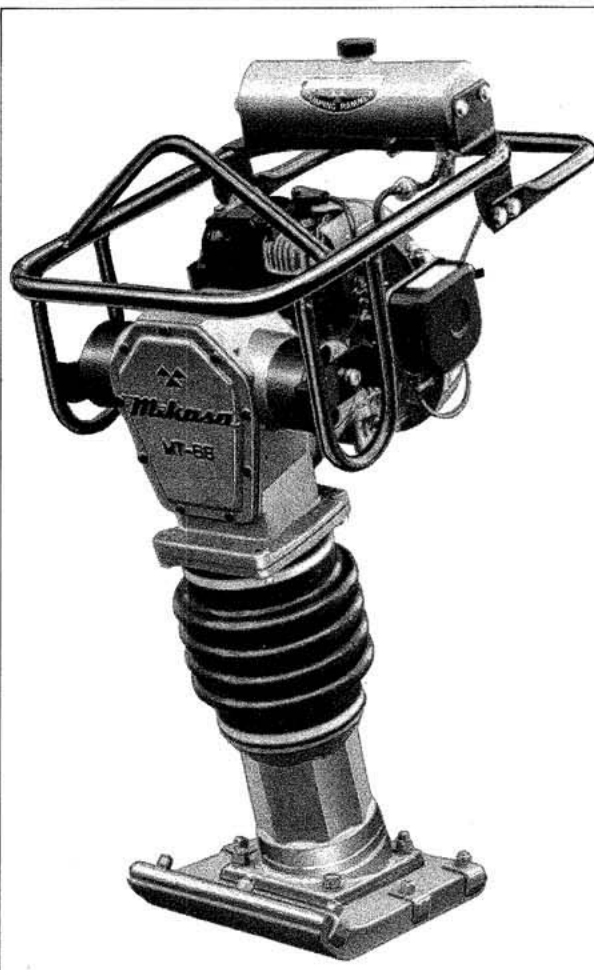
発行所
東京都千代田区築港町1-4-3
三笠産業株式会社
電話 東京(292)1411 大代表
テレックス 222~4607
郵便番号 101
PR旬報 年4回発行

大きく跳びはね
優れた安定性

強力オイルバス式 タンピングランマー

MT-68 新登場(実用新案出願中)

オイルバス式ハイジャンランマーMT-65がフルモデルチェンジされ、新たにMT-68として登場した。全体としては直線を基調としたクランクケースのデザインは、MT-65の丸みをおびた形状とは異なった力強い印象を与える。大きく跳びはね、早く進み、しかも安定がよい新型ランマーMT-68は既に九月末から市場に登場している。



オイルバス式潤滑の強力ランマーMT-65がこのほどモデルチェンジされ、九月末よりMT-68として新たに登場した。跳びはね量、進行速度、操作性などの運転性能が著しく向上しているのがMT-68オイルバス式ランマーの特長である。

とりわけ、水分を多く含んだ柔らかい土を締め固める際などは、ランマーの進み具合がきわ立ってスムーズになったのは嬉しいこと、運転の難易である。短い時間だけちよこつと使うのでは、あまり問題とならないような目立たない点も、長い時間の作業ともなると大きなポイントとなる。

跳びはねたときの姿勢の安定、バランスがとれて操作がやり易いこと、運転の難易である。短い時間だけちよこつと使うのでは、あまり問題とならないような目立たない点も、長い時間の作業ともなると大きなポイントとなる。



(柔らかい土も素早く締め固め)

大きく跳びはねて安定が良く、柔かな地盤でも足をとられずに進み、しかも作業者に疲労を感じさせないランマー。これらの矛盾する要求目標に挑戦して、設計をまとめあげたのがMT-68オイルバス式ランマーである。

とにかく、MT-68は力強く跳びはねて、楽に使えるランマーである。MT-68は一見して重心が低いと言っ印象を与える。外見上の特長は、ダイナミックとも言える角張ったクランクケースにある。いわば、ランマーの顔に相当する正面から見たところは、MT-65の丸味をおびた形と異なり、力強く見え

地面を叩くフートの形状も、長さ幅とも少し拉がった。外見上の相異箇所は、微妙な接地面のカーブの変化と、両サイドに爪状の保護板が付けられた(実用新案出願中)ことだが、取付角などの細部に至るまで、現場での経験に基づく貴重な意見をとり入れ、完成度は更に高まった。

従来からの三笠ランマーの専用エンジンとして定評あるロビンEC10Gを引続き使っているが、今回のMT-68では最適回転数にセットされている。

ランマーのパフォーマンスを考える場合、エンジンの回転数をあげるばかりが能ではない。当然のことながら運転に適した回転数がある。耐久性と騒音のことを併せ考えれば、最適な条件の回転数が必要にして充分な性能を発揮すれば、よりベターであるとも言える。

細いところでは、燃料タンクのカソリン注入口に付いていたストレーナーが、今回からなくなり、これに代って燃料パイプの途中にインラインストレーナーが設けられた。このほうが現場でストレーナーを紛失することなく、ゴミを取り除き、目つまりを防止するには役立つと

MT-68仕様	
機体の寸法(mm)	高 1015 幅 400 長 700
衝撃板の寸法(mm)	幅 285 長 340
衝撃数(毎分)	630~650回
使用エンジン	ロビン EC10G
最大出力	4PS/5000r.p.m.
回転数(毎分)	3650~3750r.p.m.
装備重量	68.5kg

アスファルト舗装作業に最適 (その場回転) ピポットターンが出来る

MVC-88

プレートコンパクター

狭い現場で大活躍



アスファルト舗装の補修工事に適したプレートコンパクターMVC-88が誕生した。都会の道路などの補修工事とならない。

もともと、バリケードを廻らせたい狭い場所での作業となるので、こまわりのきく機械でなければならぬ。

(アスファルトの仕上げ)

しまわれないように、輾圧盤の四方の隅を大きくRをとり、大きな曲面にしている。仕上面を傷つけない細かい心遣いがなされている。

三笠のプレートコンパクターは、装備重量44kgのミニサイズから118kgまでワイドバリエーション。いづれも一軸偏心式振動装置の発生する高周波振動で、軽快にアスファルトの表層を仕

昭和六十二年
建設機械展示会の開催
主催 (社)日本建設機械化協会
十月十五日(木)十八日(日)
東京都江東区青海一丁目
十三号地
交通 船の科学館前広場
JR品川駅東口より
バス又は水上バス(日
の出機橋より)をご利用
下さい
三笠製品を展示実演します

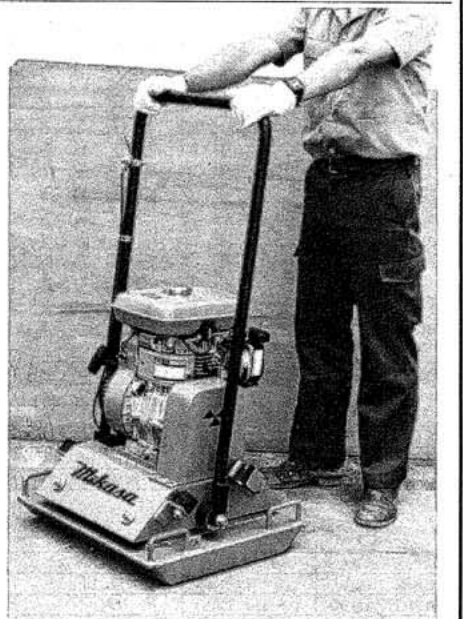
MVC-88仕様	
機体の寸法(mm)	長 830 幅 510 高 840
輾圧盤の寸法(mm)	長 620(ハンドル含まず) 幅 480
振動数	6400v.p.m.
走行速度	20~25m/min
登坂能力	20°
遠心力	1870kg
使用エンジン	ロビン EY20D
装置重量	5PS 4サイクル 88kg

MVC-88のハンドルは、機体の前側または後側に倒すことのできるリバーシブルタイプ。このハンドルを機体の中央付近に持ってくれば、これを握って進む方向と方向を変えるいわゆるピポットターンができる。MVC-88は狭いところでの作業を得意とするプレートコンパクターである。

ピポットターンのときに、アスファルトの仕上面をこじって

補修工事の際は、新旧アスファルトのジョイントをきれいに仕上げるにはあまり軽くても駄目。この点、装備重量88kgのMVC-88は適当な目方である。

激しい使用条件にも充分に耐え得るよう、Vベルトに至るまで耐久性を吟味された新プレートコンパクターMVC-88は十月末より登場する予定である。



(狭い場所でも容易に方向転換)

東北と東京の両地区で

三笠レンタル会総会開催さる

早くも東北に秋の訪れを思わせる八月二十八日・二十九日の両日、岩手県花巻温泉にて第三回東北三笠レンタル会総会が、東北六県の三笠レンタル会々員の方々多数にお集り頂き催された。続いて一ヶ月後の九月二十四日・二十五日、都内は浅草ビューホテルに於いて第四回東京三笠レンタル会総会が開催された。これらのレンタル会総会には、三笠産業側から京谷社長以下営業・技術関係の幹部社員が参加、この秋から市場に投入する新製品を発表。会員の皆さまは、展示された新製品の説明に熱心に耳を傾けていた。

第三回東北三笠レンタル会総会

第三回東北三笠レンタル会総会
は去る八月二十八日、岩手県
の花巻温泉「ホテル千秋閣」に
て開催された。

当日は前夜来の雨が激しく会
員の参集具合が心配されたが集
合時間の午後二時にはほとんど
の会員が受付を終了され製品発
表会場へ向う。ユックリと展示
機械の説明を聞き見学出来る屋
根付の広い場所には紅白の幕と
共に三笠マークのついた提燈
が華やかな雰囲気を感じていた。

技術研究所長吉田専務の挨拶
に続いて松下一技術部長から
バイブレーター関係、磯部第二
技術部長から輾圧機とカッター
関係の実演説明が行なわれ、会
員の方々は熱心に聞き取って
いた。レンタル機用としての販売
契約もはられ、会場で発注さ
れる会員もあって順調な総会の
出足であった。

製品の中ではMR-6DAロ
ーラー、MVC-40ミニプレ
ート、MT-68ランマー、M
TR-80Sランマーが特に関
心を集めた模様である。

三時半より会場を二階末広の
間に移し、定時総会が開かれた。
中野会長、京谷社長の挨拶の後
三笠社員紹介、会員紹介とスミ
ーズに運んで議事に入り第二期
事業報告(収支報告)第三期事
業計画案(予算案)も満場一致

で可決。また今年で任期を終了
する役員改選については、これ
また満場の拍手の中に現役員の
再任が決定した。

中野会長(山中産業社長) 前
田副会長(中央機械リース社長)
福田理事(幸和リース社長) 熊
倉理事(福島リース部長) 岩崎
監事(橋崎産業仙台支店長) に
は公私共に忙しな折無理なお願
いであったが皆様快く引き受け
て頂いて深く感謝致します。

一時間余り休憩して千寿の間
において懇親会を行なった。

前田副会長の開会の言葉に続
いて丸大工機商会大高社長の乾
杯の音頭で宴に入った。花巻市
の伝統の郷土芸、鬼剣舞の荘厳
な舞いに魅せられる中に一同の
メロトルも上がり、チドリ足の

中野会長挨拶要旨
当会も発足から二年四ヶ月を経
過し第三期目を迎える事になっ
た。六十一年度第二期の事業計
画も会員皆様方の御理解と御協
力、三笠産業さんの御支援によ
り、とどおりなく実施する事
が出来ました事を報告申し上げ
ますと共に厚くお礼申します。

六十二年度第三期の会の運営
事業計画、予算案に關しまして
は事務局において役員会を開き
協議致しました結果お手許の総
会資料を御検討頂き御審議の程
をよろしくお願い申し上げます。

今年は今までは市場環境が
可成り変化し、貿易摩擦、円高不
況と日本経済は大きく揺れ動き
国内外からの圧力も強く国内景
況浮上の政策に変えざるを得な
い状況下において昨年後半の補正
予算から今年に入ってから公共投
資、六兆円余の刺激効果は大き
く出て、早くもアルミ、鋼材、
セメント、木材等は値上げの動
きがあり中には品不足も出はじ
めている。

三笠産業は品不足にはならな
いよう万全の態勢をとるようこ
の点、更に留意して頂きたい。
特に公共事業への依存率の高
い東北地方は今年から更に来年
にかけて久方振りの光明が射し
ているわけですからお互いに頑
張りましょう。

秋の彼岸も過ぎ、漸く天候の
定まった九月二十四日、二十五
日の両日、発足以来満三年を迎
えた東京三笠レンタル会第四回
総会が多数の会員の皆様方が参
加され、東京都台東区の浅草ビ
ューホテルで開催された。

二十四日午後一時過ぎ、同ホ
テルロビーに集合されたレンタ
ル会の皆さんは、本日の総会々
場四階飛翔の間にしつらえられ
た三笠製品発表会場に赴かれ、
技術部の各担当者より、MT-

第四回東京三笠レンタル会総会

68ランマーをはじめとする締固
め機械とバイブレーターの説明
に熱心に聞き入ること三十分余
り、引続いて午後二時過ぎより、
第四回定時総会の幕はひらかれ
た。

まず、原会長が挨拶され、続
いて立った京谷社長は、三笠レ
ンタル会の組織も、東京・東北・
北海道と会員数も着実に増え、
東日本全体をおおうように発展
してまいりました。会長初め会
員皆様方の積極的なご支援のお
陰で、三笠産業は、輸出の落ち
込みを充分に上まわる成績を取
りましたと感謝を述べた。

かくして和気藹々のうちに総
会は午後三時を少しまわった頃
に終了。それから、皆さん打揃
ってバスに乗り、両国の国技館
へ大相撲秋場所の第十二日を
観戦に行かれた。

大相撲も打出しとなり、再び
バスに揺られ、暮色漂う街なか
を浅草ビューホテルへと戻る。
この夜は賑やかに飲を尽し、
翌二十五日朝食のあと、三三五
五別れた。

東京三笠レンタル会での 原会長の挨拶

原田記

三笠レンタル会が設立されて
早くも三年が過ぎ、四年目に入
ろうとしている。「三日、三月、
三年」とか「石の上にも三年」
と言われるように、「三年」とい
う言葉にはひとつの基礎の時代
が終ったという解釈ができるわ
けで、たまたまこれに合わせる
ように政府も緊急経済対策で公
共事業の大型補正予算を組み、
私共の業界としては、久しぶり
に明るい環境の中にいる。

三笠レンタル会と三笠産業は
車の両輪である。どちらが大き
くても、どちらが小さくても、
うまく走れるものではないませ
ん。三年間という基礎作りの時

代を終わって、これから向っ
て走り出す第四期に入った。メ
ーカーである三笠産業に提言す
べき事は皆さん遠慮なく提言し、
有意義な会にして行きたいと思
います。

京谷社長挨拶要旨
当会も年ごとに充実、発展し
ている事は会長はじめ会員各位
のあなたがいち支援の賜と深く
感謝申し上げます。

建機の需要が年々レンタルへ
のウェイトが高くなるにつれ三
笠製品も順調に普及拡大し会と
共に順調に伸びており、今後は
皆様のメンテナンスの手間を
はぶいて利益確保を高める製品
をお届けしたいと研究を重ねて



(挨拶する京谷社長)

おります。貿易不均衡への外圧
や円高不況の克服をねらって政
府は六兆円以上の大型補正で内
需拡大と景気浮揚に努めており
ます。時あたかも三笠産業創立
五〇周年の記念すべき年です。
三笠レンタル会々員の皆様と
手を携えて共存共栄、お互いの
業績の益々の充実、発展を図り
たいと心から念じている次第で
あります。

本日はほんとうに有難うござ
いました。

一台で三役

FW-555
低騒音型発動発電機

好評発売中



式より低い。ユニットは吸音材
で裏貼りされた移動の楽な四つ
の車輪付きのハウジングに全体
を収めてある。このハウジング
の両側のハッチは大きく上に開
き点検・整備がやり易い。作業
時の騒音は七m離れた位置で70
dB。低騒音型建設機械の騒音判
定基準値をクリアする数値であ
る。

三笠の高周波バイブレーター
(インヘッダー)をまわすとき
は、FW-555のインヘッダ
ー用のプラグに接続する。この
回路には自動電圧調整装置(A
VR)が組込まれ、負荷の変動
に拘らず、インヘッダーには定
格出力四・二KVAで四八Vの
安定した電圧を供給するので安
心できるものである。そして、イ
ンヘッダーでコンクリート打設
作業のとき、単相電源に接いで
照明をすることが出来る。

主要諸元		溶接電源		高周波電源	
寸法	長 1,150 幅 630 高 835 重量(kg) 245	出力(KW) 4.13 電圧(V) 27.5 電流(A) 150 溶接電流範囲(A) 60~180 溶接使用率(%) 40 溶接棒(最大 mm) 4.0	出力(KVA) 4.2 電圧(V) 48 電流(A) 51 相数 3相 周波数(HZ) 200 プラグ差し込み口 3口	出力(KVA) 2.0/1.6 電圧(V) 100/100 電流(A) 20/16 相数 単相 周波数(HZ) 60/67	出力(KVA) 4.2 電圧(V) 48 電流(A) 51 相数 3相 周波数(HZ) 200 プラグ差し込み口 3口
エンジン		交流電源		使用出来る振動機の数	
名 称	クボタZ400B	出力(KVA)	2.0/1.6	30A	13本
型 式	水冷ディーゼル	電圧(V)	100/100	40N	8本
出力(HP/r.p.m)	8.5/3,600	電流(A)	20/16	50N	4本
		相数	単相	60N	2本
		周波数(HZ)	60/67	70	1本
				90	2本
				110	1本
				130	1本

株式会社丸大工機商会

湯沢市千石町四二一五

湯沢市は、秋田県の南の玄関口に位置し、人口約三万八千人、秋田藩佐竹南家の城下町で、伝統の香りと温い心が伝わる人情味豊かなところです。又湯沢は美人の住むまち、酒のまちとして知られ、特に酒は東北の灘と称される銘酒の故郷であり、また曲木家具や、高級家具の生産地でもあります。



大高社長

観光では、栗駒国立公園の西玄関口で、木地山高原一帯を中心温泉、溪谷、湖沼など自然や資源の宝庫。特に川原毛地獄は南部の恐山、越中の立山と共に日本三大霊山のひとつといわれ、広域観光の中継点として脚光を浴びています。また、湯沢三太まつりとして、佐竹南家五代目義安侯に京都の公卿鷹司家から「おこし入れ」された姫君が、京都への郷愁をよみがえらせた想いを五色の短冊に託し青竹に飾りつけたのが始まりだといわれている「七夕絵灯ろうまつり」は、大小数百に及ぶ絵灯ろうが下がり、その色彩の優雅さ、そして雄大な、夏の夜の風物として遠来の観光客を呼び、市内全域は一大不夜城にもなります。

お客さまを

訪ねて

福島リース株式会社

郡山市並木二一四一十一



熊倉部長

福島県のほぼ中央に位置し、郡山盆地の中心で、東北有数の大商工業都市である郡山市は、かつて安積(あさか)とよばれ、戦国時代に至って郡山とよばれるようになったという。度重なる戦いで荒廃し、市街地としての発達には江戸時代、奥州街道の宿駅となつてからである。



明治時代に入ってから郡山は、明治新政府の失業武士勸業策に依じた久留米藩士らの入植と、安積疎水の完成によって急激に発展した。有名な安積疎水は、磐梯山の南麓、標高五一四メートルのところに横たわるが、屈折の湖、猪苗代湖より取水され、広大な安積原野を潤すだけでなく、その落差を利用した水力発電もおこり、この電力を利用した製糸紡績工場が建てられて工業立都の地盤ができた。そして化学工業、機械金属工業などの地元産業が活発に進展



また八月の第四日曜日に開催される「大名行列」は、絢爛豪華で大絵巻模様を呈します。そして盗難魔除を祈る冬の「犬つこまつり」は、素朴で詩情豊かな民族行事として、人々に親しまれています。

湯沢のまん中を南北に走る国道十三号線の中心地に丸大工機商会さん(社長 大高至氏)がいます。丸大工機商会さんの創業は古く、大高社長が、昭和二十七年三月に、表町に主に機械工具販売として産声を上げられ、年々発展され、昭和三十一年に、家庭電機部を併設、昭和四十四年に市内千石町に本社新築移転。昭和五十七年七月に建設機械リース部門を開設され、リース、販売、修理と充実され地元ユーザーからは絶大な信頼を得ています。

会社の理念として、「企業は人

郡山の本社、営業所ばかりでなく、県庁所在地の福島市や、戊辰の役で、白虎隊の悲劇を思いださせる歴史の町会津若松市、ならびに国際貿易港小名浜港を擁し、日本一広域の都市と知られるいわき市にも営業所を置いて、県内くまなくお客様のニーズにお応えできるよう日夜たゆまぬ活動を続けています。また、本社熊倉武夫部長さんには、東北三笠レンタル会社設立以来、理事をお願いし、いろいろな面をみて戴いている。

福島リースさんのこの事務所に伺いしても、真先に目に飛びこんでくるのが、「安全」と「品質」を貫く「二つの工夫」。

一つは、小さな投資で大きなゆとり、おまかせ下さい。等の所内に張り出されている標語である。社内コンクールによって生まれたというこれらの標語は、社員が常に、時代の先を見据えての新鋭機の導入と、完璧に整備、点検されたいろいろな機



なり」を掲げられ人材能力の開発・合理進取の精神、奉仕理念の徹底、人間関係の尊重をモットーとして地元の発展に、尽力致しておられます。

又大高社長さんには、そうした地元からの人望は厚く、湯沢市商工会理事、湯沢卸売業副会長の、又秋田県建設機械器具リース業協会会長等他に数々の役職に就任しておられます。

今後、益々の丸大工機商会さんのご発展を心からお祈り致します。

松沢記



械を、敏速かつ確実に手配する事のできる、研究、努力を重ねられている自信の現れである。

福島県内のレンタル業界では、指折りの福島リースさんは、三笠の全製品をとりそろえている。須賀川空港建設や、いわき市から、郡山市のとなり町の本宮を通って会津若松市を抜け、新潟市に通じる、県内横断高速道路計画等これから仕事が増え、益々忙しくなると思われる。福島リースさんのご発展と社員の皆様の健康を心から祈念申し上げます。

菅原記

「エレベーターで

パーティーを」

アメリカ出張録(完結編)

ARASHIO(米国レンタル業界では最大規模の展示会で毎年一回各地で開催される。三笠の機械も米国総代理店MQ社を通じて毎年出品されている)を観察するためニューヨークの視察のためニューヨークのホテルに宿泊中の我々は、食事に出掛けようとしたエレベーターにひょんなことから閉じ込められてしまった。

運命を共にしたのは取引先社長L氏、ポンプメーカーM社のN氏とT氏、商社マンY氏、三笠からは部長と私、そして少し太ったおじさん(カバに似ていた)の七名である。

こうなったら緊急ボタンを押して助けを呼ぶしかない、というので、社長のL氏が交信係を担当した。

「ハロー、聞こえますか?」

「……」 応答なし。

「ハロー、ハロー聞こえたら応答せよ。」

「はい、こちらオペレーター、何かご用でしょうか?」

いやいや間の抜けた女性の声だ。「えー、何を隠そう、我々はたまた今エレベーターに閉じ込められてしまった。エレベーターを動かすか、さもなければ、我々をここから出してくだたまえ。」

スピーカーの向うで、少しざわめいた様子がする。

「失礼ですが、あなた方は、ホテルのお客様でしょうか?」

えらい所へ来てしまった。この手のオペレーターがいるホテルのエレベーターには充分気をつけたほうがよい。

「念のためお尋ね致します。おたく様のお名前は、何とおっしゃるのでしょうか?」

と、オペレーター。

しかし、これに応えた次のL氏

「私は昨日、やはり、やられましたよ。ハハハ」

「日本は、もっと内需拡大をはかるべきだ」

「だいたい流言飛語は、こういうところから生まれる。」

「返答がふるついていた。」

「ところで、あなたの名前、ゲツの穴でなくて何と言うの?」

爆笑。大拍手。

「こうしたL氏の類い希な話術とユーモアが、その場の空気を、ねに明るくしたのである。少しの不安も感じることがなかったし、パニックにおちいれることもなかった。本当に感謝している。」

とりあえず、ホテルのサビサマネージャーがすつ飛んできた。ちよつとしたコツがあるのか、外からドアがこじ開けられた。やれやれ、どうやらこれで窒息はまぬがれたようだ。三十前後のやさ面、アメリカ人のくせに明石家さんまに似た男が立っていた。

「だいじょうぶですか」

「まあ、何とかね」 L氏

「あのう、私、そろそろ空港に行かないと、飛行機に乗り遅れるのですが、」

「カバ氏、今、エレベーター会社の技師を呼び寄せているという。」

「あのう、このたびは……まことにどうも迷惑をおかけしました。実に、えらいすみませんことです。ええ……あ、そうですね、何かお飲み物でもおもちいたしましょう。」

「スコッチの水割り」

「おれも」「おれも」

「おれも」「おれも」

「おい、居心地はどうだい」

「いつまでそこにいるの」

余計なお世話だ。

「おのう、私、もう飛行機の搭乗時間です……帰らないと女房が……おそろしく……」

エレベーターが止まって三十分くらいたったであろうか、エレベーター会社の技師がようやく到着。馴れた手つきで何やらガチャガチャ作業したかと思うと、エレベーターが少し上に動いた。

これでひとりづつ楽々と26階の方へ這出すことに成功。助かった。全員無事。ホテル客の拍手で迎えられた。ありがたう。

「あのう、私、私の飛行機は……うなるので……女房が……神の御加護を」

(追記)

このあと、我々がホテルのレストランで格別の待遇を受けたことは当然のことながら言うまでもない。ホテルの名譽のためにつけ加えておこう。マネージャーの実直さもさやかだった。又、次の朝、赤い目をしたカバ氏の姿が目撃された。

最後に、現地でのいろいろお世話になりましたYさん、本当にありがとうございました。この話、事実ですよ!!

輸出一課 藤岡記

恒例の(株)鈴機商事展示会

盛大に行なわれる

神奈川県下の有力なレンタル及び販売店である(株)鈴機商事さん(本社藤沢、営業所厚木市、相模原市、横浜、(株)鈴機リース)のグループで、いまや恒例ともなった大展示会が、一昨年に完成した藤沢の本社ビルの広大な敷地内で八月二十九日(土)三十日(日)の二日間にわたり盛大に行なわれた。

二日間とも天気は恵まれ、初日も早々とお客様が来場し、三笠のコーナーにおいても太鼓やカネが街のなかに鳴りひびき、家族連れのお客様や団体で大勢の方々が来場された。鈴機さんの営業マンも展示会場を走り回る忙しい二日間であった。

鈴機商事さんにはイメージギヤルの美しい数人のセールスレディがお客様の接待に張り切った。

鈴機商事さんは毎年売上げを好調に伸ばしておりレンタル機も新機種や新型の機械が多数用意されており、ユーザーさんのニーズにマッチした購入をされ、新機種では三笠のMCD-04カッターも早々導入された。日頃アフターサービスにも万全の体制を敷かれ、年々販路も広がりに年毎に新規のお客様も多



(大盛況の鈴機商事の展示会)

チビッコ達が館林工場を見学

館林市主催

親子工場見学会行なわれる

子供達の待ちにまつた夏休みの行事の一つとして、館林市主催の親子工場見学会が行なわれました。社会科勉強の為に市内の産業を代表するいくつかの

企業並びに今年春オープンした水産学習館(水族館)の見学を行なうもので、産業面の見学対象として三笠産業が特殊機械のアクセサリ工場として選ばれ、

数ご来場されるようになった。三笠製品も毎年シェアを拡大し、拡張に協力をお願いしており多大なご協力を賜っております。日頃のご協力と多大な応援をいただいた鈴木社長はじめ社員の方々に深く御礼申し上げます。ともに今後益々のご繁栄を心から祈り申し上げます。

向成記

(株)片岡屋

創立五十周年記念

サンクス50フェア開催

静岡県下に於ける主要代理店として活躍頂いております(株)片岡屋さん(本社沼津市柳町三十一)では創立五十周年を記念して九月十九日(土)、二十日(日)の二日間静岡産業会館(静岡市)にて大展示会を開催されました。美尾事務の開催の御挨拶で始まり、後藤事務の御挨拶で始まり、各役員によりテープカット、次に片岡建機リース(株)原社長による乾杯で華々しく開催されました。室内展示ではありましたが、両日共に天気には恵まれ、開場と同時に沼津・静岡・浜松地区のユーザーさんが御来場し、サンクス50フェアの名のごとく盛大な展示会となりました。

須田記

三笠コーナーに於いては我々も休む暇なく対応に忙がしくMX、MZ密閉バイブレーターを始め高周波バイブレーター、ラシマー、プレート、コンクリートカッターと御成約の札が次々に貼られました。これは片岡屋さんの平素のたゆまぬ営業努力とサービス活動の賜と確信し、記念すべき五十周年の感謝をこ

(役員の皆様によるテープカット)



(試運転を見守るチビッコ達)

に試運転場で何機種かの機械を動かした所、子供達から道路工事によくみかける機械だ、と声があがり、我々案内者としても喜ばしいことでした。時間の関係もあり、短時間の見学会でしたが、子供達にとっては非常に楽しい一日を過ごし、夏休みの日記帳の一項をうめる事が出来たと思います。又、お母さん達もアクセサリ工場である為、子供達以上に興味があったようです。最後に子供達に製品の絵がかかれていたTシャツが渡され喜んで帰って行きました。

館林工場 斉藤記

'87 社員海外研修の記

八月三十一日(月) 九月五日(日)、シンガポール二泊、バンコック二泊、香港一泊の旅である。各国の生活、風土、歴史を通じて、広い視野の持てる人間形成の場にした。

今回の参加者は木村、須永、川島、和泉、獅畑、林、昭和五十二年入社六名である。成田発十一時十五分、香港経由で最初の目的地シンガポールへ向った。予定通り現地時間の午後七時三十分シンガポールに到着。現地のガイドが迎えに来てくれた。ホテルへ向う途中、約二十台の生コン車を発見。ガイドの揚氏に尋ねたところ、シンガポールで最初の地下鉄が来年開通の予定で、その工事があちこちで行なわれているとの事であった。多分三笠の高周波バイブレーターも活躍していることであろう。

九月一日(火)ボタニクガーデン(植物公園)、タイガーバームガーデン、西海岸を見学。シンガポールは、マレー半島南端のシンガポール島を、主な領土とする新共和国で、国がた下に市などはない。住民の大半は中国系(華僑)で商工業を営み政治、経済の実権をにぎっている。シンガポールはガーデンシティと呼ばれる緑の豊かな美しい国である。訪れた日本人の誰しもがそう感ずる様である。又、空港、道路、公園等でゴミ一つ無い清潔な国である。

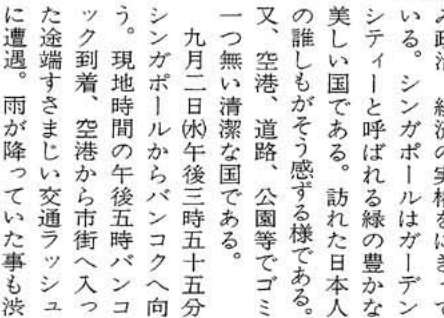
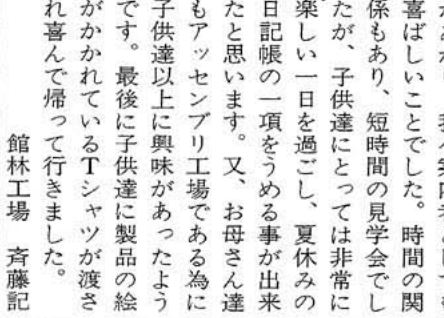
九月二日(水)午後三時五十分シンガポールからバンコクへ向う。現地時間の午後五時三十分到着。空港から市街へ入った途端ささいな交通ラッシュに遭遇。雨が降っていた事も渋滞に拍車をかけた様だが、東京客を満足させてくれる国である。

九月三日(木)水上マーケット、暁の寺院、エメラルド寺院、王宮、ローズガーデン等を見学。宿泊のロイヤルオークキッドホテルの船着場から小船で、チャオプラヤ川(メナム川)の支流へ向う。トラック用のディーゼルエンジンを搭載した小船はまたらとスピードが出る。お世辞にもきれいな川とはいえない川の水にしぶきが体中にかかり、思わずハンカチで顔を覆いたくなってきた。まもなく両岸から水上生活者の光景が目に入ってきた。その家の多くが古いもので、その生活ぶりも豊かとは思えない。そして山の様に果物を積んだ一人乗りのカヌー(もちろん人力以外の動力を持たない)が我々の周りをうろつく様になる。モーターボート、ヤシ、アボガド、ドリアン等を買わないかと、我々の舟に手をかけ自分のカヌーをびたり寄せてくる。我々の舟は動いているのに……。なんとも驚きである。

九月五日(土)午前中自由行動なのでジョッピング。免税店では日本からの観光客がとて多く、百万円近くの買物をするOLもいるようである。我々も少ない小遣の中から土産品や、お決りの洋酒三本を買った。

午後四時三十分、香港出発、成田へ向う。六日間の旅であったが、初めての国々で、初めての体験と云う充実した日々を過ごした為か、十日以上の長旅に感じられた。とても親切にしてくれた各国の人々に、心から感謝いたします。

和泉記



シンガポール タイガーバームガーデンにて右より木村、獅畑、林、須永、川島、和泉